

台湾情報誌

交流

2018年7月 vol.928

公益財団法人 日本台湾交流協会

Japan-Taiwan Exchange Association



「グローバル時代の国際交流
—台湾・日本におけるカワイイをめぐって—」

交流

2018年7月
vol. 928

目次

CONTENTS

「グローバル時代の国際交流 —台湾・日本におけるカワイイをめぐる—」 (仲川秀樹)	1
Computex2018 & InnoVEX2018レポート<1> 台湾大手ベンダーの動向と注目を集めたSmarTEXエリア (吉村 章)	8
日本台湾交流協会の事業御紹介 —台湾人高校生の日本長期留学プロジェクト— (宮崎菜津子)	16
私の留学生活～11ヶ月を振り返って～ (馮 翊甄、王 恬芯)	
台湾地方選挙と台湾政治:馬英九政権期の地方選挙 (石原忠浩)	24
日本台湾交流協会事業月間報告	35

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人日本台湾交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

● ● 交流協会について ● ●

公益財団法人日本台湾交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も大宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

「グローバル時代の国際交流 —台湾・日本におけるカワイイをめぐる—」

日本大学教授 仲川秀樹（社会学博士）

1 2015年、そして2018年初夏、台湾でのインパルス

「カワイイ」現象が若い女性たちに浸透して久しい昨今、その流れは世代を問わないスタイルとして社会に定着した。日本におけるカワイイ現象を間近にみながらそれはごく自然の流れのように感じている。2015年初夏の6月、日本台湾交流協会の派遣で台湾を訪れた。松山空港を降りてすぐに感じたのは、空港内のキャラクターをメインにした「カワイイ広告」、空港から車で移動するあいだ、インパクトのある女性モデルの登場する「カワイイラッピング広告」に覆われた数台の市内バスに遭遇した。（写真1）それは大きな衝撃となった。

さらに衝撃は、国立中興大学事務局前に貼られていた、女子学生たちをモデルにした大きな広告だった。（写真2）そして2018年客員教授派遣先となった天主教輔仁大学のキャンパス。学内カフェや学生食堂内のいたるところにある「カワイ



写真2 国立中興大学事務局前



写真3 天主教輔仁大学学生食堂内



写真1 ラッピング広告

イ広告」は、キャンパスの雰囲気をもっと明るくさせていた。（写真3）2015年の「おしゃれ」とは「カワイイ」とは、そしてスマートなキャンパスとは、その答えはここにあった。直接的なカワイイを表現した広告に、素直に反応することができた。

ふたたび2015年初夏の台湾を振り返ると、若い女性たちの多くはショートパンツのファッションであり、さわやかなスマートな感覚のカワイイ

姿を映し出した。台湾のカワイイ・ファッションには、1960年代の日本における「ホットパンツ」と1990年代のパステル調にアレンジした「ロマンチック・ファッション」を重ね合わせ、それが今日的にコーディネートされたスタイルとしてみることができた。⁽¹⁾2015年の台湾に、ある種の郷愁と新鮮なトレンドのインパルスを受けることになった。そしてあらためて2018年初夏、台湾のそうしたモデルをカワイイと登録した。

台湾におけるカワイイ・ファッションを単なる流行とかトレンドに限定してみるのではない。台湾と日本のファッションによる共通性には、人びとの地球規模におけるライフ・スタイル、資本移動の自由化にみるグローバル化の現代社会に、日本とのあらたな国際交流の要因になる内容が多く内在していることに大きな関心をもたずにはいられなかった。台湾と日本に共通する「カワイイ」スタイルから双方の影響過程を探ることで、より国際交流が深まることを予感してのことである。

2 「カワイイ」現象とは

そもそも「カワイイ」という現象には「おしゃれ」がつきものである。カワイイ現象分析には、おしゃれとの関係を抜きには語ることができない。そこでおしゃれとカワイイの関係を社会的に整理してみたい。

カワイイは、主に女性たちを中心とした人間関係にみるコミュニケーション的行為である。そこに集う人間間でその対象（モデル）に対する了解と合意が存在し、共通のコミュニケーションとしてカワイイは意味づけされた。カワイイに注目されるのは、日本語表記にある「可愛い」から「かわいい」そして「カワイイ」と時代の推移のなかでその意味は変化をなしてきた。ファンシーグッズなどにみる1970年代的「可愛い」。アイドルタレントのしぐさや振る舞いにみる1980年代的「か

わいい」。1990年代には女性誌やモデル、ファッションをターゲットに「カワイイ」の表記が一般化した。時代ごとに変化するカワイイの記号的な意味に注目することによって、時代の流れも知ることになる。

そこでカワイイとおしゃれを連続的に考えると、おしゃれとは、時代の潮流に敏感であり、ファッションブルに流行やトレンドをコーディネートすること（人）にはかならない。時代の感性に素直に応えながら表現できることでもある。

それに合わせカワイイとは、「そこに居合わせたグループ内で、ある対象をカワイイと登録（承認）することで了解されたモデル」である。⁽²⁾他のグループがそれをカワイイと認識する必要はなく、当該グループで了解が生じれば、それはカワイイとなり成立する考え、一般的な社会通念は必要とせず、集団内の帰属や属性がカワイイモデルとして登録する選択動機となる。ゆえに今日、多様なカワイイが広く発生している状況は自然でもある。カワイイは、一般的なコミュニケーションの道具にもなっている。

宮台真司は、日本の女の子は、「かわいい」を、コミュニケーションの手段として進化させたという。カワイイモードで交信をはじめると、もう何も考えなくても自然にコミュニケーションが転がっていることに気がついた。⁽³⁾カワイイモードでのコミュニケーションの可能性である。

日本におけるカワイイが注目されたのは、女子大生ブームと女子高生ブームにある。1980年代初頭の女子大生ブームは、女性誌によるキャンパス・ファッションブームにあった。女子大生ブームは、「ハマトラ・ファッション」（横浜元町老舗ブランド商品のコーディネート）からはじまり、女子高生ブームは、「制服のモデルチェンジ」（セーラー服からDCブランドデザインへ移行）が背景にあった。とくに女子高生のカワイイを象徴しているのは、「リボン」「フリル」「レース」のカワイ

イ三大要因にあった。⁽⁴⁾

カワイイ要因の一つであるリボンについては、2018年3月台湾派遣時に遭遇した複数の事例が印象的だった。タクシーの車窓から髪に大きなリボンを結んだ少女を目撃した。さらにホテルで食事中に隣のテーブルで食事をしていた少女も同じような大きなリボンを髪に結んでいた。その時は特に気にはしなかったが、翌日、台北大学の林先生ご夫妻と面談中に、日本のポピュラーカルチャーの話題に触れ、台湾では、「キティちゃん」より「スタジオジブリ」が人気だのご婦人が話された。そこで浮かんだのが「魔女の宅急便」の主人公が髪に結んでいた大きなリボンだった。

カワイイ三大要因は少女だけではなかった。国立政治大学での特別講演時に出席され、質問をしてくれた大学院生も大きなリボンを髪に結んでいた。客員教授で講義を担当した輔仁大学の大学院生はレースデザインのファッションに身を包んでいた。淡江大学のキャンパスでは、夕日の美しいキャンパス・スポットでのレースデザインの学生たちは今日的「映え」(SNS インスタグラム)の環境に遭遇しているのもよく理解できた。自由な感覚でおしゃれを楽しむ台湾の学生たちの姿から、カワイイは世界で共有されたトレンドであることを確信した。

3 ファッションとのかかわり

ファッション・コーディネートを中心に彩るのは、疑いなくおしゃれとカワイイスタイルである。日本における学生たちのおしゃれは、1970年代のキャンパス・ファッションを契機にしている。1970年代初頭に『an・an』(マガジンハウス)、『non-no』(集英社)が創刊され、女性のライフスタイルが確立された。1975年に『JJ』(光文社)が創刊され、若奥さま・女子大生を対象にしたおしゃれの先陣を切った。1980年代『CanCam』(小

学館)、『ViVi』(講談社)が続けて創刊され、コンサバ・セレブ系のキャンパス・ファッションが全盛期を迎えた。1980年代後半になると、女子大生に限らずOLたちも元気だった。高級ブランド商品と合わせ、タイトミニからワンレン・ボディコンは、バブル時代(景気高揚)を象徴するスタイルとなった。

当時、華やかな女子大生やOLを見ていた女子高生たち、その予備軍としての姿を浮かび上がらせたのは1990年代に入ってからだった。バブル崩壊後(景気後退)の社会は、お金をかけずにおしゃれをする風潮にシフトされた。それがパステル調を基本にしたシースルーやレースデザインのロマンチック・ファッションの登場となった。おしゃれやカワイイに対するOL・大学生から中高生へ、ファッションは低年齢化へと進んでいく。その記号こそ、カワイイであった。大人から中高生へ、女子大生・OL中心の1980年代セクシーから1990年代の中高生のエロチックスタイルは、低年齢化の典型となった。その流れはギャルを生み出した。

女性誌もその動向に応えるように、『Popteen』(角川春樹事務所)、『mini』(宝島社)、『mina』、『Scawaii!』(主婦の友社)のようなストリート・カジュアル系の雑誌が人気を博した。安価でかわいくコーディネートできる内容に女子高生たちは群がった。「~カワイイ」という表現が巷に溢れ、2000年代に入ってもなおカワイイの細分化は続いた。カワイイは、ファッションに限らず日常生活の多くのモデルを対象に拡がり、浸透していった。

日本の女性誌は台湾でも好評である。中国語に訳された『ViVi美眉』、『Ray 端麗』、『mina 米娜』など、日本で紹介され、トレンドになっている多くのファッションを受け入れた。そこには台湾の女性たちが、流行・ファッションを通じた台日交流を、日常的に可能にしていることを裏づけている事例である。ヨーロッパのモード系ファッショ

ンに対して、あらたな日本的リアル・クローズの普及は、国際的にもファッションの多様化した環境が広まっていることも意味している。

4 ポピュラーカルチャーからの分化

ファッションの多様化は、人びとの日常生活のスタイルにも反映している。台湾における日本のファッションへの関心は、いわゆる「ポピュラーカルチャー」の浸透を意味する。カワイイの周辺はファッションに限らず、エンタテインメント性の高いコンテンツの登場にみるようになった。世界的に注目された日本のアニメやコスプレ、キャラクターなどの関心は、トレンド世界として発展を遂げている。

ポピュラーなモデル、ポピュラーなカルチャーを少し整理したい。ポピュラーカルチャーは、ごくありふれた人びとの文化(生活様式・行動様式)に端を発している。一般的にポピュラーカルチャーとは、長く大衆文化という言葉で伝えられてきた。19世紀近代化以前には「民衆文化」(ポピュラーカルチャー)として、庶民に根ざしたごく自然のスタイルであった。その後、産業化の流れに乗りながら消費という次元が背景にあらわれ、「大衆文化」(マスカルチャー)として認知された。そして今日、大衆文化と民衆文化は区別されず、ポピュラーカルチャーとしてあつかわれようになった。⁽⁵⁾

今日のポピュラーカルチャーに内在し注目すべきは、娯楽的なエンタテインメント要素を含んだスタイルにある。ポピュラーカルチャーはある意味「サブカルチャー」としても用いられ、多彩な概念によって対象モデルを広げている。ここでいうサブカルチャーとはメインカルチャーの周辺に位置するモデルで、メインにはならなくてもメインを底上げする勢いのあるカルチャーと考える。ポピュラーカルチャーから分化したモデルとして、

サブカルチャーに注目したい。大衆文化からポピュラーカルチャーへ、そこには「みんなが一緒に楽しみを共有する共通の嗜好」が存在している。ポピュラーカルチャーから分化したスタイルを追うことで、そこにあるカワイイもまた多彩な状況を呈している。

日常のさりげない場面を彩るのは、なごやかなやすらぐ空間づくりであり、その表出がその時勢に選択されたポピュラーな文化である。複雑な人間関係やハードな生活のなかで、しばし心を休める空間がカワイイに彩りされた数々のエリアにほかならない。そこにエンタテインメントが加わることで、ポピュラーカルチャーは拡散されている。その象徴の一つがおしゃれでカワイイ文化と考える。人びとの関係をより豊かにし、よりネットワークを広げるための媒体としてのポピュラーカルチャーにもっと注目すべきであろう。台湾や日本の文化を相互に受け入れ、それを定着させることでもう一方の国際交流へと導くのもトレンド現象である。

5 台日カワイイ現象の広がり

国立中興大学国際政治研究所を訪れ、研究内容の説明を受けた際のパワーポイントには、日本のキャラクター「くまモン」が描かれていた。(写真4)キャラクターによるもう一つのカワイイ現象の広がりをみるようになった。冒頭からキャラクターの話題になりこやかな面談となった。今日、このようなキャラクターは、ゆるキャラ(ゆるいソフトなマスコットキャラクター)とも言われ、行政機関をはじめ、企業や各種の団体、地域商店街のアイデンティティとして位置づけられてきた。ゆるキャラは、多彩なイベントや、地域おこし、関連グッズなどに使用された。くまモンは、熊本県庁が2010年より、「くまもとサプライズキャンペーン」において展開している、熊本県

PR マスコットキャラクターである。ゆるキャラグランプリ 2011 の王者でもある。

全国区になった熊本のくまモン以外にも、行政と民間がそれぞれキャラクターを用いて地域活性化を進めている都市もある。山形県酒田市の公式キャラクターである「あののん」(赤獅子)「もしえのん」(黒獅子)は、酒田大火復興から、酒田を元気にするために生れた「獅子頭」をキャラクター化したものである。(写真5)あののんは、酒田市民の話を持ち出す「あのの(あのね)」から、もしえのんは、「おもしえ(おもしろい)」から名前がついた。2011年に酒田市のイベントチラシではじめて登場し、2014年には酒田市へのPR活動が認



写真4 国立中興大学 PP 画像



写真5 酒田市公認キャラクター



写真6 酒田市中町中和会商店街キャラクター

められ、公認キャラクターとなった。⁽⁶⁾

さらに2017年には、民間である酒田市中心市街地中町中和会商店街振興組合によって「チュワちゃん」が登場した(写真6)。赤黒白の三毛猫をモチーフに、なるとのホッペ。ふわふわのしっぽに触れると願い事がかなう。福娘のお面がお気に入り、酒田のラーメンと寒鱈が大好き。地元の活動をアピールし、商店街のイベントや酒田市のイベントにも参加している。⁽⁷⁾酒田市と地元商店街、行政と民間がそれぞれキャラクターを立ち上げ、カワイイスタイルによって活動を展開しているのは全国でもめずらしい例となった。

そもそもキャラクターとは、1970年代前半にファンシーショップに置かれていた女の子向けグッズの呼び名であった。当時のファンシーショップには、いまではポピュラーな「ハローキティ」「ミッキー・マウス」のようなキャラクターが置かれていることはまれであり、動物やカントリー調の小物が中心であった。一般的に、イメージのみ専攻しているキャラクターやキャラクターグッズとはどのようなものを次のように規定しておきたい。「動物やアニメ・マンガのキャラクターが多様なバージョンに姿を変え、商品化されて多くの人びとに親しまれ、身につけられているモデル」である。⁽⁸⁾つまり、アニメから登場した

キャラクターや商品、テーマパークのマスコットなどのぬいぐるみ(着ぐるみ)やそのキャラクターがプリントされた雑貨類でもある。

キャラクターの採用理由として、誰からも愛される「カワイイから」「心がなごむから」に代表されるような精神的な癒しややすらぎは、全世界共通の枠組みになっていると考えられる。これまでキャラクターを愛用してきた女性たちにも、つねに、「カワイイものをもっていたい」という願望も強い。それが今日では性別や年齢を問わず、多くの人びとに受け入れられ、キャラクターを示すことがコミュニケーションの重要な道具・アイテムの一つになっている。中興大学のインフォメーション・パワーポイントは、その象徴であった。

結び カワイイは、国際的友好関係のモデル

台北松山空港に降りて、真っ先に目に留まったのは、キャラクターを用いた巨大広告であった。その隣には、おしゃれな女性を前面に出したカワイイ広告に、しばし目を向けた。移動する車の車窓から、移動する電車の車内や車窓からみるカワイイ広告は、驚くことばかりだった。天主教輔仁大学輔大駅構内、国立台湾大学公館駅構内のカワイイ広告と続いた。(写真7)そして台北駅のコンコース内のカワイイ動画でピークを迎えた。(写真8)カワイイ動画は、企業の業種を問わず、コンコース全体を優しく明るく、これから出かける乗客を見守っているようなコンテンツだった。

カワイイ広告は、特定の人気モデルさんからキャラクターとそのジャンルは拡大している。子どもから大人という枠を超えて、人びとをつなげる対象モデルとして、国内のみならず、世界各国へとカワイイ・ネットワークは広がりを見せている。その一つ、2015年5月、台北に登場した「KUMAcafe」(2017年11月まで)は、日本の熊



写真7 国立台湾大学公館駅構内



写真8 台北駅コンコース内動画

本県公認キャラクター「くまモン」をメインにしたカフェである。くまモンパンケーキや、フレンチトーストなどのメニューで、台湾でも多くの人びとを集めた。

台湾でもカワイイキャラクターとして、2016年に高雄市農業局キャラクターとして登場した「ガオトントン(高通通)」も人気だ。2018年1月に宮崎市のみやざき台湾文化祭にて、宮崎市のキャラクター「みやざき犬」と一緒にダンスを踊ったコラボレーションは両市のキャラクターを結んだ友好一大イベントとなった。⁽⁹⁾

台湾と日本の友好関係にキャラクターは重要な役割を果たし続けている。2017年5月26日、中

華航空（チャイナエアライン）は、高雄—熊本間に特別塗装機「三熊友達号」を就航させた。機体には、日本のくまモンと、台湾交通部観光局のPRキャラクター「[口屋]熊（オーション）」そして、高雄市観光局の「高雄熊（ヒーロー）」がデザインされた。台湾と日本のより観光促進のために観光客や熊本県などの協力によって実現された。⁽¹⁰⁾三熊は、カワイイと刺激的、心をなごませるそれぞれのキャラクターを前面に押し出し、三熊のコラボにより、単独では味わえないインパクトを多くの人びとに与えた影響は大きなものであろう。

国際関係にはさまざまなスタイルが存在している。政治や経済的な交流がメインに取り上げられるなか、身近な誰もが心を躍らせるようなカワイイモデルが、あらたな国際友好関係として広がりを見せている事実も知っておきたい。台湾における学術的な交流は、長く歴史を形成してきた人文科学や自然科学の領域のみならず、社会科学としての「社会学」的な視点に関心を抱く学生や研究者の多いことにも、いま一度目を向けてもらいたい。近年、台湾の学生たちと接したなかで、おしゃれやカワイイ、キャラクターなどの関心やその効果を理解できたことは、大きな収穫となった。（写真9）



写真9 2018 フォローアップシンポジウム

カワイイというトレンドには、今日的な地球規模の人間関係をサポートしているような流れがある。流行やファッションは極めて日常的である。その中心にるのが若い人びとである。子どもたちや若い世代の人びとのスタイルには、素直に選択したモデルの存在をみることができる。集合現象は人びとの共感した意識の反映である。ゆえにそれをグローバル時代の象徴であり友好関係のモデルとして位置づける必要があるだろう。ポピュラーカルチャーによる友好関係のモデルに、あらためて注目したい。

注

- (1) 仲川秀樹、2002年、『サブカルチャー社会学』学陽書房、113頁
- (2) 仲川秀樹、2010年、『おしゃれとカワイイの社会学』学文社、6頁
- (3) 宮台真司、2007年、「NHK 東京カワイイ☆LIVE」コメント
- (4) 仲川秀樹、2010年、前掲書、7頁
- (5) 岡田宏介、2003年、「マスカルチャー、サブカルチャー、ポピュラーカルチャー—文化理論とイデオロギー概念の変容—」『ソシオロギス No27』ソシオロギス編集委員会、104-105頁
- (6) 酒田市公式HP参照
- (7) 中町中和会商店街振興組合公式HP参照
- (8) 仲川秀樹、2002年、前掲書、157-158頁
- (9) みやざき元気！「地産地消」推進会議事務局資料参照
- (10) 「フォーカス台湾」記事参照

付記

台湾における研究活動におきましては、客員教授として受け入れてくださった天主教輔仁大学・頼振南、何思慎両教授、そして全面的なサポートを賜った横路啓子、黄翠娥両教授、および大学院生・謝毓漩さんはじめ学生、関係スタッフのみなさまに感謝いたします。また、国立政治大学・李世暉、石原忠浩、王信實各教授、国立中山大学・郭育仁教授、国立中興大学・廖舜右、蔡東木、陳国珍、黎立仁各教授、淡江大学・任耀庭、胡慶山、除浚馨各教授、中国文化大学・徐興慶、黄美恵両教授、国立台北大学・林超駿教授、国立台湾大学・蔡英欣、林立萃、曹景恵各教授、そして東海大学・陳永峰教授の先生方にあらためて感謝申し上げます。

最後に日本台湾交流協会台北事務所文化部・松原一樹広報文化部長、佐倉勝昌主任および関係スタッフのみなさまに感謝申し上げます。

Computex2018 & InnoVEX2018 レポート< 1 > 台湾大手ベンダーの動向と注目を集めた SmarTEX エリア

台北市コンピューター協会 東京事務所 駐日代表 吉村 章

今回からシリーズで Computex2018 & InnoVEX2018 をレポートする。今回は Computex 概況及び台湾大手ベンダーの動向、注目の SmarTEX エリアをレポート。次回は Computex2018 で注目を集めた製品や技術を重点的にレポート。そして第3回では2016年から Computex に併設されて今年で3回目の開催となるベンチャーイベント、InnoVEX (イノベックス) をレポート予定。

■ 1,602 社、5,015 小間、6月5日(火)から 会期5日間で開催

Computex2018 & InnoVEX2018 の主催は Taipei Computer Association/TCA (台北市電腦商業同業公会) と TAIWAN TRADE CENTER/TAITRA (中華民國對外貿易發展協會)、2つ団体による共同主催。2018年6月5日(火)から6月9日(土)まで会期5日間で開催された。出展企業数は1,602社、5,015小間、Acer (宏碁)、ASUS (華碩)、Giga-Byte (技嘉)、MSI (微星) など台湾を代表する大手ベンダーから、中堅・中小企業、ベンチャー企業までが参加する一大イベント。台湾のIT製品を買い付けに海外からバイヤーが集まるアジア最大のITイベントである。

一方、2016年にスタートし、今年で3回目の開催となる InnoVEX (イノベックス) は、2018年6月6日(水)から6月8日(金)までの会期3日間で開催。世界21の国と地域から388組スタートアップチームが参加。ピッチコンテストでは102のエントリーから29のスタートアップチームが書類審査を通過してセミファイナルに進出し、6月8日(金)にはファイナリスト8社による決戦大会が行われた。(InnoVEX 2018 と台湾ベンチャー事情については本誌にて改めてレポートを予定)



写真1 出展企業1,602社、5,015小間、写真は南港ホール4F



写真2 製品を買い付けるために世界中からバイヤーが集まる

■ バイヤー登録は168の国と地域から 42,284人

台湾国内外の業界関係者なども含めた総来場者数はおよそ13万人。この数はほぼ例年並み。し

かし、主催者が注目しているのは総来場者数ではなく、外国人バイヤーの登録者数だ。

海外からのバイヤー登録者は168国と地域から合計42,284人。この数字は昨年比べて微増。具体的な人数は発表されていないが地域別バイヤー登録者はアメリカ、日本、香港、中国、韓国が上位5つ。これにタイ、マレーシア、ドイツ、インド、フィリピンが続く。中国からの来場者が一昨年、昨年と減少しているが今年も同様。一方でタイやマレーシアなど東南アジア諸国からの来場者が増えている。アメリカと日本の来場者はそれぞれおよそ4千人。去年に続き日本からの来場者が増えている。会場のあちらこちらで日本人グ



写真3 6/5～6/9まで会期5日間 写真は世界貿易センター第1ホール、SmarTEXエリア



写真4 世界中から集まるバイヤーは視察や情報収集ではなく、製品の買い付け、具体的な商談が目的

ループの姿を見かけた。

■南港ホール 4F、さまざまな方向性を模索する大手ベンダー

南港ホール 4F で最も存在感を示していたのは ASUS (華碩) ブース。昨年の Computex で発表したサービスロボット「Zenbo」をメイン通路沿いのミニステージに配して、踊ったりステージを動き回ったりロボットのパフォーマンスを披露していた。また、ブース内ではノートブック、タブレット、携帯電話、Gaming PC など全方位的に製品を展示。来場者の注目を集めていた。〈写真5〉



写真5 ASUS (華碩) ブースでは揃ってダンスをする「Zenbo」が迎えてくれる

一方、Benq (明基) は無人コンビニのシステムを出展。顔認証のゲートから店舗内の清算レジまでブース内に無人コンビニの買い物空間を設けてデモを行っていた。また、今年もブース内にロボットアームを設置し、スマートファクトリー分野にも積極的に取り組んでいる姿勢をアピール。BtoB ソリューションを全面に打ち出した展示だった。〈写真6〉〈写真7〉

MSI (微星) は南港ホールの 4F に Gaming PC を出展、1F にはスマート・ビーグル、テレマティスのソリューションを出展。フロアーを分けた出展を行っていた。台湾の大手 PC ベンダーは Giga-Byte (技嘉) や Acer (宏碁) など Gaming PC を中心とした方向に向かう企業と BtoB ソ



写真6 Benq (明基) ではブース内に自動コンビニを再現、カゴの品物をボタンひとつで手軽に決済



写真7 こちらも Benq (明基) ブース、ロボットアームのデモ

ソリューションに向かう企業と2つの流れができつつある。そうした中で、MSI (微星) はどちらにも均等に力を入れている姿勢が印象的だった。<写真8>



写真8 MSI (微星) は南港の1F にテレマティクス・ソリューション

Mitac は BtoB ソリューションに向かう代表事例。今年も図書館の貸し出しシステムを出展。IoT を使ったソリューションはさまざまな分野で具体的な浸透を見せている。(BtoB ソリューションに向かう台湾大手ベンダーの一連の動きを見ていると ASUS (華碩) ブースが逆に保守的にすら見える) <写真9>



写真9 MITAC (神通) は図書館システムのソリューションを出展

一方、今年の Computex で個人的に最もショッキングだったのは Acer (宏碁) ブース。パソコン最大手である老舗 Acer (宏碁) のブースからパソコンやタブレットが消えた。今年の Acer (宏碁) は「Predator」(プレデター) というネーミングで Gaming PC を展開。独自の方向性を模索している。今年の Computex ではこの Gaming ブランドを全面的に押し出し、ゲームが中心の出展となった。<写真10>



写真10 Acer (宏碁) ブースからパソコンやタブレットなどIT端末の出展が消えた

■サービスロボット、KIOSK 端末、自動コンビニに注目、BtoB ソリューションが急増

今年の Computex ではサービスロボットの出展も注目を集めた製品のひとつ。写真は台湾では最大手のシステムインテグレータである Syscom(凌群)が医療機関向け受付ロボットを出展。英語や日本語で対応するデモも行われていた。<写真 11 >



写真 11 台湾最大手のシステムインテグレータである Syscom(凌群)は医療機関向けの受付ロボットを出展

他にも見守りロボットや子供向けの教育ロボットなど、AIを組み込んだロボットが注目を集めた。単なるエンターテインメント用途のロボットではなく、具体的な目的用途で開発されたロボットや完成度の高いアプリを内蔵したロボットの出展が増え、出展内容が要素技術からソリューションへと進化している。これも今年の Computex の



写真 12 今年注目のサービスロボット。介護支援、教育、受付サービスなどに使われる具体的なソリューションの提案が目を引いた

特徴のひとつとっていいだろう。<写真 12 >

また、南港ホール 1F でも KIOSK 端末、自動化コンビニなど BtoB 向けソリューションが急増。従来は POS システムや組込みベンダーが工業用 PC や端末を出展するエリアであるが、今年は用途を絞り込んだ BtoB ソリューションの出展が目立った。もちろんバーコードリーダーや POS 端末といった製品は従来通り。しかし、デジタルサイネージやモーションキャプチャー技術など、それぞれの要素技術を取り込んでソリューションとして提供し、具体的なビジネスモデルを提案する企業が増えている。<写真 13 >



写真 13 南港 1F では KIOSK 端末や自動コンビニなどソリューションの出展が目立った

■時代は e スポーツ、各社 Gaming PC を積極的に展開

ここ数年台湾大手ベンダー各社が力を入れているのが Gaming PC だ。アメリカやヨーロッパでは e スポーツが盛んでプロ・プレイヤーが存在するなど、早くから競技人口を増やしている。e スポーツとはエレクトロニック・スポーツの略称でコンピューターゲーム上で行われる競技のこと。サッカーや野球、または格闘技やシューティングゲームなど、プレイヤーはコンピュータ上で相手と対戦し、観客は大型モニターなどで観戦を楽しむ。1990 年代後半頃からインターネットの普及

によってゲームのスポーツ化が加速し、アジア・オリンピック評議会が主催するアジア室内競技大会では2007年から正式種目として採用されている。日本でもeスポーツの普及を目的とした日本eスポーツ協会が作られているが、eスポーツはまだまだ認知度が低く、やっと環境整備が始まりつつあるという現状だ。

台湾大手ベンダーはeスポーツの競技人口が多い欧米向けにゲーム専用機の輸出を伸ばしている。ハイスペックのグラフィックカードを搭載した高性能モデルやeスポーツ向けの専用モデルや周辺機器を次々に発表。光る冷却ファンや色とりどりの冷却液を搭載したモデル、また光るキーボード、光るマウス、凝ったデザインのケースなどがマニアの間では人気を集めている。椅子も大切なアイテムのひとつ。今回のComputexでは例年以上にGamer専用の椅子の出展も数多く見られた。<写真14><写真15><写真16><写真17>



写真14 南港ホール4Fに設けられたeスポーツ特設ステージ



写真15 ゲームキャラクターも登場。ここは台北ゲームショウではなくComputex



写真16 凝ったデザインのゲーム専用機。独特なケースデザイン、冷却方式、光るファン



写真17 椅子はGamerにとって重要なアイテムのひとつ

■ Computex の特徴は「トレードショウ」であること

Computex とはどんな展示会か、その特徴をひとことと言い表すと「トレードショウ」であること。海外から4万人を超えるバイヤーを集め、まさにモノの売り買いをする「商談」の場である。日本の展示会の場合、ブースで具体的な商談をする人は稀だ。新製品の発表の場であったり、企業のイメージアップ、製品PRの場である。来場者も業界のトレンドを知るために展示会に足を運ぶことが目的。展示会の会場で価格交渉やサンプル発注など具体的な商談をするケースは稀だ。

Computex にはパソコンやタブレットといった製品やその周辺機器、工業用PCや組み込み基板、POS 端末、ネットワーク関連機器や通信設備、さらにストレージ、ケーブル、コネクタからラック、椅子、鞆、スマホケース、アクセサリの類まで、買い付けたい製品は何でも揃う。世界169の国と地位からバイヤーが訪れ、製品を買い付ける「商談」の場なのである。その年のクリスマス商戦を睨んだ製品の買い付けが目的。つまり Computex は「トレードショウ」なのである。

■ Computex のもうひとつの特徴はスタートアップ、ベンチャーイベントであること

Computex にはIoT関連の製品やサービスを集めた SmarTEX エリア (Smart Technology Applications & Products) が設けられている。また、今年で3年目となる InnoVEX (イノベックス) が併設されている点も大きな特徴のひとつと言えるだろう。

SmarTEX エリアと InnoVEX に出展する企業を理解するために3つのキーワードを挙げてその特徴を説明したい。彼らの出展目的を大きく分類すると「誰か売ってほしい」、「誰か作ってほしい」、「誰か助けてほしい」と3つのキーワードで言い表すことができる。

「売ってほしい」とは必ず販売パートナーを探しているということ。出展目的としては当然のことである。特に、販路を持たないスタートアップやベンチャー企業にとって販路拡大は切実な問題である。これは海外のバイヤーだけでなく、台湾の国内の大手ベンダーに売り込むという目的もある。Computex にはたくさんの国内業者も訪れる。スタートアップやベンチャー企業の最新技術やユニークな製品を探している企業も少なくない。「売ってほしい」とは海外バイヤーだけでなく、国内の企業も対象となる。

「作ってほしい」とは量産パートナーを探しているということ。これは主に台湾国内の大手ベンダーが対象。製品のプロトタイプ (試作モデル) を出展して、販売パートナーや量産パートナーを探し、海外での市場開拓に挑む。資金力がないスタートアップやベンチャー企業にとって、InnoVEX は大手量産ベンダーに自社の製品やサービスを売り込む絶好の機会である。技術力や開発力が試される「登竜門」の場であるという言い方もできるだろう。

台湾の量産ベンダー側にも事情がある。さまざまな分野でIoT化が進んでビジネスモデルが変化する中で、これまでのようにパソコン、タブレット、携帯端末といった製品を主力とすることは限界がある。各社がBtoBソリューションに向かっている流れの中で、スタートアップやベンチャー企業の中で魅力的な技術や製品を持っている企業があれば、自社に取り込みたいと考える。Computex はこうした双方のニーズが合致した出会いの場なのだ。

■ Computex は技術や製品開発の相互補完の場でもある

3つ目のキーワードは「誰か助けてほしい」である。展示会に出展される製品は必ずしも完成度が高いモノばかりとはいえない。むしろ完成度の

低さを補ってくれるパートナー求めて出展する企業も少なくない。SmarTEX エリアとInnoVEXにはそうしたスタートアップやベンチャー企業が数多く出展する。

技術と製品と大きく2つに分けることができる。InnoVEXではオリジナルの要素技術の出展、または独自のビジネスモデルの提案が多い。一方、SmarTEX エリアではそうした技術が具体的な形になり、製品のプロトタイプ（試作モデル）が多い。もちろん、技術と製品に明確な境界線があるわけではなく、InnoVEXに製品出展もあり、SmarTEX エリアに要素技術の出展もある。どちらも完成度を上げるためのパートナー探し、相互補完のパートナー探し、または量産化のためのパートナー探しが目的だ。

一般的に日本企業は（特に大手企業は）製品の開発から生産、さらには販売まで一貫して自社で行うケースが多い。しかし、台湾ではそれぞれの「強み」を補い合うために横の連携を取り合いながらビジネスモデルを作り上げていくケースが多い。独特な「水平分業体制」が特徴である。また、日本の企業が展示会に製品を出展する場合、製品には一定の完成度が求められ、その基準をクリアした製品のだけが展示会に出展される。ブランドイメージ、企業としての威信、開発者のプライド、社会的責任といった点から見ても完成度の高さは重要である。

一方、台湾では製品の完成度の高さよりもビジネスのスピード、フレキシビリティ、チャレンジ精神といった点が重視される。多少粗削りでも、むしろ製品の完成度を上げていくためのパートナー探しを重視。それぞれの「強み」を持ち寄って、横の連携で相互補完関係を作り、製品の完成度を上げていくことが重要であると考えられる。

「誰か助けてほしい」というキーワードは、言い換えると「より完成度の高い製品を作るために相互補完のパートナーを探している」ということ。

アイデアを形にするためには足りない部分を補ってくれるパートナーが重要。少量生産から量産化に持ち込み、世界を相手に販路を切り開いていくためには、ビジネスモデルをいっしょに組み立て行くパートナーが必要である。そう考えるのが一般的に台湾人経営者の特徴であり、スタートアップやベンチャー企業の経営者はより意欲的である。

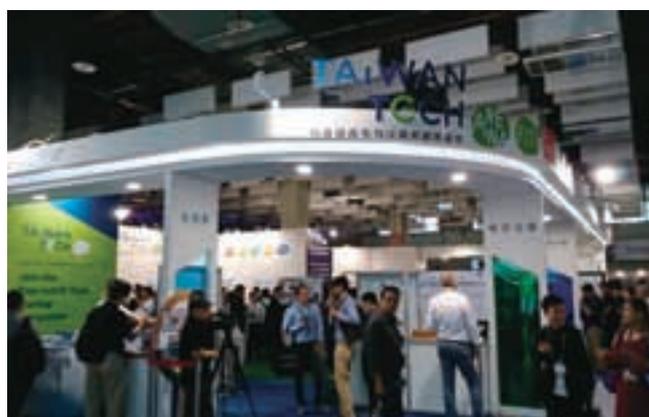


写真 18 科技部青年科技創新創業基地/TAIWAN TECH パビリオン、横連携でビジネスを作り上げるのが台湾企業の特徴

■日本企業は Computex とどう向き合うべきか、ビジネスチャンスの探し方

Computex でパートナーを探すとき、筆者が考える最も重要なキーワードは「相互補完」である。完成度の高い製品を探し出すことではなく、自分たちの「強み」がうまく活かせる相互補完関係を作り出せる製品かどうかにかまを向けるべきである。

立ち寄ったブースで日本の方から「出展製品の技術レベルや製品の完成度がもうひとつ…」というコメントを耳にすることがある。詰めの甘さ、仕上げの粗さ、精度の低さが気になるようである。製品がひとつ前のスペックであったり、最新の部材が使われていなかったり、手に取った製品の欠点に眼を向ける人も少なくない。

しかし、そうしたマイナス部分を日本側が補い、製品の完成度を上げることで新たなビジネスチャ

ンスを作り出すことができないだろうか。仮にブースに並んでいる製品が期待通りのモノではないとしても、もう一步踏み込んで、その製品を開発した技術者と話をしてみたり、またはその会社の経営者に会って話を聞いたり、コミュニケーションをとってみることをお勧めする。それが Computex を見るコツであり Computex のおもしろさのひとつでもある。



写真 19 創新育成主題館/Taiwan Startup Springboard パビリオン、InnoVEX の中で大学発ベンチャーが出展するエリア

■ Computex の出展製品は「最先端」ではなく「実用先端」を重視

最後にもうひとつ触れておきたいポイントがある。Computex は「最先端」の技術を競う展示会ではなく、「実用先端」の技術を駆使した製品出展の場である。残念ながら Computex には車の自動運転も、最先端 AI を駆使したビッグデータの解析も、第五世代の通信技術の展示もない。こうした技術動向に関心がある方には展示ブースでなくカンファレンスがお勧め。会期中、欧米から有識者を招いたセミナーやカンファレンスが多数行われた。

Computex は未来の技術に触れて、情報を収集する場ではなく、直近のビジネスで「売れるものを調達する場」である。「ハイテク」や「高付加価

値」を求めるのではなく、必要十分な機能で、むしろコストパフォーマンスのよい製品を安く大量に買い付けることが Computex に世界中からバイヤーが集まる理由。「最先端」よりも既存の技術を重視、市場で求められている製品を如何に安く、大量に買い付けて、市場にいち早く投入していくこと。世界中から集まるバイヤーが Computex に期待しているのは「実用先端」の技術と製品なのである。

企業側も未来のトレンドや将来のビジネスを提案する展示ではなく、今年のクリスマス商戦に向けて買い付けて行って欲しい製品をラインナップする。市場のニーズに合わせた製品をいち早く開発し、低価格で大量に提供する。Computex に間に合わせるために開発と量産のスピードを競い合う。Computex の面白さはここにある。



写真 20 台湾雲端物聯網協會/Taiwan IOT Technology and Industry Association, (通称 TwIoT) による StarFab Accelerator パビリオン、出展製品は「最先端」を競うのではなく「実用先端」が特徴、製品化と量産化までのスピードを競い合う <http://www.twiota.org>

※来年の Computex & InnoVEX2019 は 2019 年 5 月 28 日 (火) から 5 日間の開催予定。Computex レポート内容に関して詳細は TCA 東京事務所 ippc@tcatokyo.com まで

日本台湾交流協会の事業御紹介

—台湾人高校生の日本長期留学プロジェクト—

公益財団法人日本台湾交流協会

総務部 宮崎葉津子

新事業の開始

昨年4月、日本台湾交流協会初となる高校生を対象とした長期留学プログラム「台湾高校生日本留学事業」が始動した。本事業は、台湾の高校に在籍する台湾籍高校生を対象に、日本への高校留学を支援するもので、双方向の交換留学ではなくインバウンドのみ、留学期間は台湾の学年制に合わせた8月から翌年7月までの11ヶ月間である。

本プロジェクトが企画された背景の一つには、現在台湾における日本語世代と呼ばれる層の高齢化がある。日本統治時代を体験した知日派の多くがすでに業界から一線を退いており、若者達はエンタメ・サブカル等を通じて日本に親しんでいるものの、一方で欧米志向も強い。この現状を受け、次なる世代に改めて親日の種を撒き、日台友好の架け橋となる人材育成を目的として、新事業に着手することとなった。

日本台湾交流協会では長年に亘り大学生・大学院生に対する奨学金事業を実施しているが、高校生、それも約1年の長期留学となると勝手は異なる。募集・選考基準の設定、台湾側教育機関への協力依頼に始まり、日本側の受入校・ホームステイ先のマッチング、来日後の行政手続きや留学生活の様々なサポート等、未成年として配慮すべき点、受入団体側が主体となってアレンジすべき事柄が諸々あり、高校留学プログラムに知見ある他団体にノウハウを学びながら、一から手探りで準備を進めた。

学校選び

なかなか一筋縄でいかないのは、受入校の開拓である。文部科学省によるSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）認定校の登場等、高校国際教育は年々活発になりつつあるものの、長期留学生の受入土壌は依然として発展途上という印象だ。学校全体が日々の業務に忙殺され余裕がないということもある。また国際教育に積極的であったり、台湾との学校交流が盛んであったりしても、あくまで教育旅行や短期交流の範囲に留まり、長期受入には消極的であったりする。訪問した高校の中で「これほどグローバル化が叫ばれていても、校内では日本語がままならない外国人生徒を授業で教えることを敬遠する先生が少なくない」と漏らす担当者もいた。

その一方で、積極的に台湾とつながりを持ちたいという高校や、海外へ留学することばかりではなく留学生の存在によって校内の国際意識を育てたいという熱意ある高校に出会えることもあり、1期生の受入校はそうした高校が大半を占めている。

ホームステイ探し

何より最大の難関はホームステイ先の確保だ。現在は手配業者に委託しているが、日本では欧米ほどには未だホームステイ受入がポピュラーではなく、ホストファミリーの絶対数が少ない上に、大学生以上や短期滞在の受入のみという家庭が比

較的多い。加えて、ホストペアレンツが共働きというケースが多いことから、食事の用意等の負担がある高校生の長期受入にはそう簡単には手が上がらない。たとえ良い高校を見つけても、通学圏内にホームステイ先が確保できなければ、派遣を諦めざるを得ない。

それでも1期生のホームステイ先には、半年から11ヶ月フルの受入を引き受けてくれるホストファミリーもあり、留学生と本当の家族のような関係を築いているのを見ると、心の底からありがたく感じる。

第1期留学生

台湾全土から集まり、爆弾低気圧のなか行われた面接を乗り越え、約4倍の倍率をくぐりぬけた記念すべき第1期生は、女子13人、男子2人の計15人。昨年8月27日に来日し、東京で4日の研修を終えた後、各留学地へ派遣された。今回の受入先となったのは、北は北海道から西は三重県まで、公立5校、私立8校の全13校で、中には長期の留学生受入は初めてという学校もあったが、積極的に協力いただいたおかげで、ほとんど大きな

問題なく留学生の学校生活が開始した。

本事業の留学生は、日本語能力試験4級相当以上の日本語力を応募資格条件としているが、1期生の大半が日本語学科出身ということもあり、日本語力は総じて高く、留学開始当初こそ授業や同級生との会話スピードについていくのに苦戦していたものの、数か月もするとすっかり慣れ、他の一般生徒と見分けがつかないほど溶け込んでいった。

しかしそこに至るまでには留学生達の大変な努力があった。台湾と日本は文化的に比較的近いが、それでも生活習慣や物事の考え方に差異はある。友達作り等の学校の悩みばかりでなく、ホストファミリーとの相性等の問題もある。毎月のレポートには、留学生達が文化の差に葛藤しながら、忍耐強く日本の高校や各ホームステイ家庭の生活に適応していく様子が伺え、長期留学が受入側のみならず留学する側にとっても決して容易でないことを実感させられる。なお、本文後には2人の留学生による実際の留学体験記を紹介しているので、是非そちらもご一読いただきたい。



来日時に駐日台北経済文化代表事務所を表敬訪問



中間研修では3.11で被災した大槌町の高校生達と震災学習を通じて交流

高校留学の意義

高校留学における受入校開拓、ホームステイ先確保、そして留学生の適応といった問題は、どのようなベテラン団体であっても毎回直面している。しかしそうした困難があってもプログラムを継続しているのは、高校留学だからこそその潜在的価値を見出しているためだ。人間は大人になればなるほどアイデンティティや価値観が確立するため、ネイティブレベルで他国の価値観を共有し同化するのが次第に困難になっていく。しかし高校生という思春期で柔軟性のある年代は、留学でより早くより多くのことを吸収し、吸収したことを“借りモノ”ではなく自分のものにしやすいのだと、長年の経験から実感をもってそう語る受入団

体職員もいた。更には、高校留学によって育まれた絆が、何十年後に国と国を繋ぐ大きな助けとなった事例を目の当たりにしたともいう。

当協会の高校留学事業は今年でようやく1年。撒いた種が芽を出し、花を咲かせ或いは大樹に育つまでには長い時を要する。上述のような成果を実感できるのはまだまだずっと後のことになるだろう。

ついに迎える7月21日には、11か月の使命を終えて1期生達が台湾へ帰る。そして翌8月には次なる留学生が来日する。彼らがいずれ大学に進学し、社会人となり、どのように日本に関わっていくのか、楽しみに見守っていきたく思う。



私の留学生活 ～11ヶ月を振り返って～

留学先：東京都立翔陽高等学校2年

所属：文藻外語大学2年*

馮翊甄

合格発表から留学がもうすぐ終わる今まで、時間の流れが速くて、一年というのはこんなに短いのが初めて知りました。しかし、それも私が充実した一年を過ごせた証の一つですね。

日本で体験したいイベントの中で不可欠なのはやはり、祭りや着物や花火大会だと思います。ですが、色々な体験の前に、現実的にもっと心配する必要があるのは学校生活とホームステイなのです。自分の努力は当然として、留学の質は留学先

の学校とホストファミリーの環境と大きく関わっています。幸いに、今回私が出会った人たちは、皆親切で、色々助けてくれる人たちでした。

最初の目標

- 1、日本語もっと上手に話せる！
- 2、日本の文化や生活をもっと理解する！
- 3、友達作る！
- 4、祭りなどたくさん体験する！

5、日本語能力試験合格！

せっかくのチャンスで留学に来ましたから、この一年間を無駄にしてはなりません。こういう決意をもって、日本へ向かいました。初めて家から出て、家族がいないところで生活するのに、あまり怖いと思わず、やる気満々でした。ですが、来た頃はやはりまだ慣れていないことが多く、会話するときもなかなか緊張していました。生まれてからずっといた環境と全く違い、学校も一緒に住んでいる人も言語でさえ違います。それでも、これらの困難を越えて、目標に向けて頑張りたいと思っていました。

困っていたこと

留学は、日本で日本語を勉強するではなく、日本語で知識をもらうのです。学校では当然日本語で授業をしますが、入学のときはほぼついていけませんでした。解決方法としては、クラスメートに聞いたり、放課後に家で復習したりしました。しかし、そのときの私はまだ誰も知らなかったもので、聞くのもちょっと緊張していました。日本の女子たちは仲良くなりやすいと聞きましたが、実際にはそうではないかもしれません。今もそうですが、私がわからないところがあって、クラスメートに聞くときは、いつでも優しく説明してくれていて、ありがたいです。

ところが、日本語の理解力は部活にも影響がありました。ダンス部に入っていますが、ダンスが上手になれるように、自分の練習以外は他人のアドバイスも非常に重要です。最初は先輩たちが言ってくれたコメントの意味でさえ、知りませんでした。なので、何回も同級生の人に教えても

らっていました。

一年後の現在は、前言った問題はほぼなくなりました。授業中にちょっとボーとしても、先生が言っている内容も分かるし、部活のときも、コメントをもらうだけでなく、うまく自分の意見も述べるようになりまして、すごく嬉しいです。他の人と会話するときにはもう緊張しなくなったのは自分の進歩が一番見えたところだと思います。

学校生活

一年もない間にクラスの皆とこんなに仲良くなれるとは思いませんでした。クラスの皆と誰でも話せるようになりました。二年生になったとき、クラス変えて違うクラスになったともかかわらず会うたびに笑顔で話しかけてくれます。こんなに仲いいクラスは私が台湾にいた時もなかったのです。毎日、学校に行くのを楽しんでいます。学校に行くと、大好きな友達がいる、好きな授業もあって、優しい先生たちもいます。

また、日本の学校生活といえば、もう一つ重要なのは部活だと思います。正直に言うと、部活は私の留学のほぼ半分を占めているのかもしれませんが。ダンス部なので、公演か大会があったりします。忙しいときは一週間のなかで休みがないこともあります。放課後にすぐ更衣室に行って着替えしてから、部活の準備をするのは毎日の日常です。筋トレとか体幹はとても疲れますが、慣れたら、その辛さも楽しさになるかもしれません。できるようになったときは本当に嬉しかったです。

前も言ったとおり、部活はほぼ毎日やっているもので、部員と一緒に時間も長かったです。好きなことを一緒にやって、もっと上手くできるように一緒に練習して、私にとって共に成長できる大切

な仲間たちです。

クラスメートも部員たちも、彼らがいってくれたからこそ、私がこんなに充実した学校生活を送ることができました。

ホームステイ

昔からずっと日本のホームステイを体験してみたかったのです。ホームステイは日本の家庭生活や文化や食生活をもっと理解するための近道だと思います。それだけでなく、学校の人と違い、生活環境がさらに違うため、多様な人と接触することができます。

一年も一緒に暮らしてきて、本当の家族みたいな感じです。この一年間の中で、毎日毎日美味しい弁当も作ってくれたり、私の悩みも聞いてくれたりしてくださっていました。朝の「おはよう」も、学校から帰ってきたときの「お帰り」も、暖かい言葉で元気がもらえます。海外にいても、安心な居場所があって、寂しいと思ったことはなかったです。

結語

この一年間を通じて、私も色々成長したと思います。日本語もそうですが、それだけでなく、自立度や時間管理の能力なども良くなった気がします。ここでは勉強のほかにもレポートとかやることがいっぱいあります。そのため、時間をもっと有効に使わないとならないのです。例えば、通学が一時間くらいかかる私にとっては、一日中に二時間が無駄になってしまいます。そうならないように、電車中で単語の勉強をしたり、ニュース読んだりします。このように、時間分配についても日本語能力についても良くなる方法のひとつだと思います。

また、もうひとつ勉強になったのは、「試す」ということの大切さです。違う国で、学校も日常生活もたくさんの違いがあるのです。その故、やったことないことか苦手なことも少なくありません。しかし、こういうときこそ恐れずに、勇気を出してやります！ やって見ないと、どうにもならないので、とりあえず最初の一步を出しましょ



大好き大好きなクラス。留学期間ずっと支えてくれた人たちで、一年間ずっと一緒！クラス最後の行事の球技大会の写真でした。



体育祭でのダンス部。皆と楽しくやりました！ 道具係りの仕事も笑いながらやっていました。

う。きっとできるようになりますから。この勇気を教えてくれたのもこの一年間の経験からなのです。

短い時間なのに、こんなに素晴らしい人たちと出会えて、好きな勉強もできました。皆のお蔭で

充実な毎日を過ごして、いっぱい思い出も作れて、感謝すべきことが多すぎます。皆大好きです。ありがとうございました！ 最高で素敵な留学でした。



私の留學生活 ～11ヵ月を振り返って～

留學先：札幌聖心女子学院高等学校 3年
所属：台北市私立靜修女子高級中學 2年
王恬芯

私は昨年8月末から、11ヵ月の留學生活を経験しました。その間私は札幌聖心女子学院に通い、寄宿生として過ごしました。札幌聖心は全校生徒約180人の小さな女子校です。生徒の3分の1は日本全国から来た寄宿生です。しかし、一度も自宅に帰らずに、一年もの長い間寄宿生として過ごす留學生は私が初めてでした。

最近、1年という時間はなんて速いのだろうと思、この前留學の先輩がおっしゃっていた事を思い出しました。「1歳の時、1年は1分の1だけど、2歳になったら、1年が自分の2分の1になる。今は人生の18分の1の時間だから、1年は今までより速い感じる」ということです。確かに、18歳の私だから1年が速く感じることもあるかもしれませんが、でもそれだけではありません。とても充実していたので、速いと感じたのだと思います。

最初はとても不安で、時間があつたらすぐイン

ターネットで「海外留學の経験」や「海外での生活の方法」をたくさん調べ、他の留學生にも相談しました。そして、ある時こんな言葉が出てきました、「私たちが置かれている状況は、他人と同じようであっても全く同じではない。その状況を正確に認識して、その上で自分の生き方を決めねばならない。つまり、生き方は千差万別である。他人と同じ生き方はできないのである」。私はどんなに多く他の人の経験を見ても、自分でやってみなければ何も始まらないのだということが分かりました。

寄宿舎には集団生活をするためにたくさんの決まりがあります。私は先生や上級生と一緒にいたら、自分が扉を開けて先に通っていただくというドア通しを始め、お皿洗い、洗濯、お祈りなどの生活面の礼儀やルールを学び、頑張っって寄宿舎の決まりに慣れました。学校でも他の生徒と同じように授業や行事に参加し、友達を作ってきました。

私は明るいので、台湾にいるときはなるべく自分から友達に話しかけていたけれど、日本に来た時、みんなのことを知らず、話題もなかなか出てきませんでした。その結果、自分から話しかける勇気がなかなか出てきませんでした。ところが、クラスと寄宿舎のみんながやさしくて、話しかけてくれ、色々なことを教えてくれたので、本当に助かりました。小さな学校だからこそ、みんなすぐに私のことを知り、先輩後輩関係なく、挨拶をしてくれたり、遊んでくれたりして、仲も良くなれました。ただし、長期休みの時、寄宿舎は閉鎖になるので、ホームステイをしなければなりません。学校内でなかなか長く受けられる人がいなくて、冬休みの一か月に5回ほどホームステイ先を変えました。それぞれの食事時間や習慣などが違うので、体内時計が安定せず、心身とも慣れることを精一杯でした。

この11ヵ月のうち、生徒が受ける定期試験は4回ありました。最初、私は受けませんでした。授業に参加するうちに少しずつ内容が分かるようになり、3月の高2の学年末試験は、国語以外のすべての科目を受けました。全校で行われる地理コンテストにも参加し、日本の47都道府県と庁

所在地を覚えて、満点も取りました。日本の英検も受けて、2級も取りました。台湾の高校にいた時、私のクラスも日本からの留学生がいましたが、私とは違い、テストも受けられなくて、授業さえ一緒に受けられませんでした。テストや授業の内容を理解するのも結構時間がかかるし、ストレスもあるけれど、みんなと同じの目標を目指し、本当に楽しかったです。違う環境で生きてきた為、違和感を感じたこともありましたが、留学生を特別視しないこの学校で、留学する前に思っていたよりも楽でした。

学校の活動も色々参加できる機会がありました。一番印象に残っているのはクリスマスコンサートです。聖心女子学院はカトリックの学校で、クリスマスの行事を大切にしています。私は、クラスの友達に誘われてタブロー（キリスト降誕の無言劇）のオーディションをうけ、聖母マリア役に選ばれました。役に選ばれた時は、単純に嬉しかったのですが、練習が始まると、セリフこそありませんが、台本を理解するのも難しく、先生のおっしゃっていることが分からなかったり、叱られたりしました。しかし、タブローにかかわる仲間たちやクラスメイトが励ましてくれ、支えて



くれたので、頑張って休み時間を使い、先生に教えていただき、たくさん練習しました。コンサートの公開日に、最後のシーンで涙を我慢しながら、舞台に立ちました。台湾でもあのような大切な役で舞台に立ったことがなかったので、不安に打ち勝てて、とてもいい経験と思い出になりました。

この1年は朝から晩まで、ずっと日本人と一緒に暮らしているので、日本語を学んだだけではなく、だんだん自分からみんなの真似をして、文化の違いと習慣の違いを学んできました。初めは同アジアの国だから、そんなに違いがないと思っ

てきましたが、日本人からすれば当たり前のことでも、私から見たら、慣れる時間が必要です。でも、逆に、来る前一番心配した友人問題はほとんどありませんでした。以前、留学の経験者から、「日本人と友達なるのが難しい」「外国人と思われて気を使われる」などの話を聞きましたが、ここでは全然そのことに困らなかったです。

大変なことがたくさんあったけれど、もしもう1回1年前に戻られたら、同じく留学の決定にします。何回も台湾に帰りたと思ったことはありましたが、後悔したことはなかったです。



台湾地方選挙と台湾政治：馬英九政権期の地方選挙

石原忠浩（台湾・政治大学日本研究プログラム 助理教授）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

本年 11 月に、次期総統選挙の前哨戦とも称される直轄市長選挙を含む統一地方選挙が実施される。4 年に 1 度実施される地方選挙は、総統選挙が兩岸政策や国家のあり方を問う選挙であるのに対し、より身近な経済・社会 이슈が争点となるほか、その時の政治の勢い、雰囲気の結果を左右してきた。実際に、民主化後の台湾において、県市長選挙の結果は、その後の政局の流れを決定づけたこともあり、各政党が重視する選挙となっている。本稿では、馬英九政権に実施された地方選挙とその結果が、その後の政局に及ぼした影響を考察する。

1. はじめに

11 月 24 日に投開票が実施される予定の統一地方選挙は、「首都」台北をはじめとした 6 市の直轄市長を含む 22 の県市長のほか、県市議員、郷鎮市長及び代表、村里町などあらゆる公職人員を選出する選挙であり、2014 年の選挙の際には 9 種の公職を選出したことから、台湾メディアでは「九合一選挙」と称された。

昨年 12 月の住民投票法の改正により、発議、実施、成立要件などが緩和されたことにより、各政党が主導する社会団体などが複数の住民投票案を提出し、現在審査されている案が統一地方選挙と同時実施されることも予測されており、今回も「九合一選挙」の名称が使用されるかは不明瞭な点もあるが、2020 年の国政選挙に向けた重要な選挙であることは間違いない。

本稿では、3 月号に続き、11 月の統一地方選挙を前に、2008 年から 2016 年の馬政権時代の地方選挙がどのような状況で実施され、その選挙結果が、以後の政局にいかなる影響を与えたのかを整理し、本年の選挙を観察する際の参考にしただけであれば幸いである。

2. 地方自治体の再編と地方統一選への統合

2008 年から 16 年までの馬英九政権で実施され

た地方選挙は、2009 年 12 月に直轄市を除く、県市長及び県市議員選挙、2010 年 11 月の直轄市長及び直轄市議選挙、2014 年 11 月の直轄市長を含む統一地方選挙が行われた。

2009 年 6 月に地方自治体の再編が行われ、直轄市が台北、高雄の 2 都市から、新北、台中、台南を加えた 5 都市になった。なお、台中、台南、高雄の三都市はいずれも旧台中縣市、旧台南縣市、旧高雄縣市が合併したことにより、それぞれが新台中市、新台南市、新高雄市となり、台中県、台南県、高雄県の三県は、それぞれ旧台中市、旧台南市、旧高雄市との合併により消滅することとなった。三直轄市の合併により地方自治体の数は、従来の直轄市 2、その他縣市 23 の合計 25 から、2010 年以降は直轄市 5、その他縣市 17 の計



2009 新竹県議候補の活動

22 縣市となった。(2014 年 12 月以降は桃園県が桃園市に昇格した。)

なお、以前は選挙実施の年も直轄市長、その他の県市長は別の年に実施されていたのが、2014 年の選挙からは、同時選挙となった。そのため、直轄市と非直轄市の任期のずれを調整するために、2009 年に選出された非直轄市の首長、議員はいずれも通常の任期より 1 年長い 5 年の任期を務めることとなった。

現行の台湾における選挙は、今後 2018 年統一地方選挙、2020 年国政選挙（総統及び立法委員選挙）、2022 年統一地方選挙と、2014 年以降は二年に一度の頻度での選挙となった。筆者が交流協会で勤務していた時は、2004 年 3 月総統選挙、2004 年 12 月立法委員選挙、2005 年 12 月県市長選挙、2006 年 12 月直轄市長選挙が実施され、毎年のように選挙があり、それを中心に台湾社会が動いていた感があったのと比べると二年に一度の選挙というのは隔世の感を禁じえない。

3. 2009 年県市長選挙

選挙前の情勢：

2008 年 5 月に発足した馬英九政権は、台湾独立の選択肢を排除し、中国側の主張する「一つの中国原則」に歩み寄る「92 年コンセンサス」を两岸交流の原則にすることに同意したことで、人的交流の緩和と拡大、制度化された対話メカニズムの実施、経済交流の緊密化などで两岸関係の緊張は大幅に緩和され、全面的な交流が促進された。

一方で、内政面では、当初の期待が大きすぎたこともあり、新政権発足当時から施政に対する満足度は伸び悩んだ。馬総統は、執政当初は政務と党務を切り離し、党派を超えた「全国民」の総統になる施政モデルをめざしたが、総統府-行政院-議会-党の連携がスムーズに運ばなかったことから、方針を転換し、「党政一致」を目指すべく、翌年の党主席選挙に出馬し当選（7 月）、就任（9 月）した。

しかし、その間、天災が馬政権の政治的土石流となった。8 月上旬に台湾を襲った台風 8 号（モーラコット）は、台湾南部を中心に死者 681 名をもたらす大災害となったが、その際の政府の不手際、高官の不用意な発言などが台湾世論の大きな怒りを引き起こし、馬政権の威信は大きく傷ついた。直後に実施された国民党寄りの『聯合報』の世論調査では、馬総統への施政満足度が 5 月の前回調査と比べて 20% 以上急落し 52%→29%、劉兆玄行政院長への満足度も 43%→20%と過去最低を記録したことで、9 月の立法院新会期の開会を前に内閣改造を余儀なくされた。

2009 年 9 月に断行された内閣改造では、行政院長が劉兆玄に代わり、馬総統が党主席時代に秘書長を兼務していた呉敦義立法委員が就任したほか、副院長には、ポスト馬英九の有力者とみなされていた朱立倫桃園県長を抜擢した人事は「大震撼」という表現で翌日の新聞で報じられた。今改組では、行政院長、副院長のほか 10 閣僚が交代する大規模なものとなった。人事刷新の甲斐あってか、新内閣就任 1 ヶ月の段階の世論調査では、施政への満足 48%、不満足 20%となり、ようやく低落傾向に歯止めがかかった。

第一次馬政権にとっての初選挙は、このような劣勢の中で、臨むことになった。

選挙結果とその後の政局：

12 月 5 日に投開票が行われた台湾の県市長選挙は、国民党が現有 14 ポスト（新党ら友党含む）から、2 議席減の 12 ポストに終わった。民進党は南部、雲林県、嘉義県、屏東県のほか、前回の選挙で失った宜蘭県を奪還し、当初の最低限の目標であった 4 ポストを獲得した。県市長選挙における得票率は国民党が 47.88%（前回比-1.92%）、民進党が 45.32%（同+7.13%）となり、国民党の停滞、民進党の復調という結果となった。

投票率は 63.34%、縣市別では最高が嘉義県の 75.29%、最低が基隆市の 53.04%であった。



2009 苗栗県議候補の選挙カー



2009 苗栗県長の選挙活動

表1 2009年県市長選挙の当選者と所属政党

县市	当選者(選挙時の職務)	政党	得票率	投票率
基隆市	張通榮(基隆市長)	国民党	55.10%	53.04%
宜蘭県	林聰賢(羅東鎮長)	民進党	54.25%	70.68%
桃園県	呉志揚(立法委員)	国民党	52.22%	53.73%
新竹市	許明財(新竹市職員)	国民党	55.63%	56.83%
新竹県	邱鏡淳(立法委員)	国民党	38.48%	69.49%
苗栗県	劉政鴻(苗栗県長)	国民党	63.79%	68.28%
彰化県	卓伯源(彰化県長)	国民党	54.88%	65.56%
南投県	李朝卿(南投県長)	国民党	50.87%	67.75%
雲林県	蘇治芬(雲林県長)	民進党	65.36%	64.61%
嘉義県	張花冠(立法委員)	民進党	55.91%	75.29%
嘉義市	黄敏恵(嘉義市長)	国民党	52.19%	66.96%
屏東県	曹啓鴻(屏東県長)	民進党	59.32%	68.09%
花蓮県	傅崐萁(立法委員)	無所属	56.37%	59.47%
台東県	黄健庭(立法委員)	国民党	52.59%	61.88%
澎湖県	王乾発(澎湖県長)	国民党	49.36%	63.33%
金門県	李沃土(県議)	国民党	37.27%	53.80%
連江県	楊綏生(医師)	国民党	57.18%	72.25%

資料元：中央選挙委員会「98年縣市長縣市議員 郷鎮市長選挙概況」

<http://db.cec.gov.tw/histQuery.jsp?voteCode=20091201C1C1&qryType=ctks>

選挙結果について、大手新聞社は「台湾住民は馬英九に教訓を与えた」(自由時報)、「得票率は過去最高、民進党の勝利」(聯合報)など、「国民党の敗北、民進党の勝利」という論調になった。2008年の総統選挙、立法委員選挙で惨敗を喫した民進党は、蔡英文主席の指導の下でどうにか政権

奪回への足がかりを築くことができたと見えよう。事実、選挙直後の世論調査では、蔡主席への満足度が馬総統の満足度を上回る結果が見られたのは、ご祝儀相場とも言えるが、野党への期待感の現れであろう。

国民党、民進党は本選挙結果を想定内の結果と

みなし、「勝利宣言」、「敗北宣言」をすることはなかったが、12月上旬には、両党の秘書長が相次いで交代することとなった。

国民党は詹春柏副主席兼秘書長の党秘書長退任及び副主席専任と金溥聰元台北市副市長の党秘書長就任の人事案を決定した。馬總統の側近中の側近と言われ、過去の馬總統の選挙を取り仕切ってきた金氏の秘書長就任は、直轄市長選挙を見据えた選挙体制との見方が大勢を占めた。

民進黨は、呉乃仁民進黨秘書長が辞任し、蘇嘉全・元内政部長が就任した。蘇氏は屏東県長を二期務めたほか、内政部長、農業委員会主任委員など要職を歴任し、蔡英文政権下では立法院長に就いているが、当時から民進黨内では将来を嘱望されていた次世代のニューリーダーの一人であった。

4. 2010年直轄市長選挙

選挙前の情勢

台北市、高雄市の他に、台北県、台中、台南が直轄市となったが、新高雄市は高雄市と高雄県、新台中市は台中市と台中県、新台南市は台南市と台南県が合併したことから、選挙区と有権者が拡大し、2009年の県市長選挙が展開している段階から、一部の候補は出馬宣言をするなど白熱していた。

候補者選びに関しては、政権奪回を狙う民進黨



2010 台北市長選挙国民党の活動

は、当時将来の総統有力候補とみなされた、蔡主席、蘇貞昌元行政院長の動向が注目された。党内には、最も声望の高かった蘇元院長に対し、2012年の総統選挙で馬總統に勝てる唯一の候補ということで、直轄市長選挙への出馬は「温存」すべきという声と、野党の身分で直轄市長選挙で全力で戦わないようでは、次期総統選挙に勝てるわけもなく、今選挙には蔡主席とともにどこかの選挙区で出馬し、勝利をもたらし、12年の政権交代への流れを確実にすべきとの見方が存在した。この脈絡では、蘇元院長は勝利の可能性が高い新北市に出馬し、民進黨にとって困難な選挙区である台北市には、ソフトなイメージを有し、無党派層の支持に期待ができる蔡主席の出馬が期待されていた。なお、蔡主席は、1-2月に実施された立法委員補欠選挙で6勝1敗の好成績を収めたこともあり、党内有力派閥は次期主席選挙も蔡英文支持で固まり、2010年5月の主席選挙では、泡沫候補の挑戦を受けたが一蹴し、再選を決めていた。

2010年の内政は、主に两岸経済協力枠組協議(ECFA)をめぐる、推進する国民党政権と反対する民進黨の構図で展開した。4月には馬總統と蔡主席による公開討論会が開催されたが、8月には議会における審議が終了し、9月には発効するなど、内政面では2009年ほどの混乱はなかったといえる。

候補者選びに関しては、与党国民党は現職の郝龍斌台北市長、胡志強台中市長は現職のため、すんなり決まったが、新北市に昇格する台北県長の周錫瑋氏の施政満足度が低迷を極め、民進黨が蘇氏を候補に選んだ場合の世論調査では、仮想敵の蘇氏に20%以上もリードされていたことで、党中央は周県長の再出馬を断念させ、勝てる候補として朱立倫・行政院副院長の擁立を決定した。同党が劣勢の台南、高雄は現職元職の立法委員が公認候補に選出された。

民進黨は、3月上旬に蘇元院長が「勝てる確立が高い」と見なされた新北市ではなく、民進黨に

とって困難な選挙区である台北市長選挙への出馬を表明した。この挙動に関しては、蔡主席も知らなかったようで、民進党の支持者からも「蘇氏はなぜ、あえて困難な台北市に？」との疑義が生じた。その後、党内では他に立馬意向を示す者はおらず、蘇氏の台北市長選挙への出馬が決定した。本来、台北市長選挙への出馬が噂されていた蔡主席は、蘇氏に機先を制された形になり、最多の有権者を有する新北市長選挙に挑むことになった。台中市長候補には、蘇嘉全秘書長が党内調整の末に選出されたが、執政市の台南市、高雄市では予備選が実施された。

新たに直轄市となる台南市は、旧台南市と旧台南県が合併することになったが、同選挙には現職の許添財台南市長、蘇煥智台南県長の他、現職立法委員3名が出馬する大混戦となった。事前の予測では、現職の両市長と頼清徳委員の三つ巴の戦いとみられたが、結果は頼委員が予想外の差をつけて勝利を納めた。周知の通り、頼委員はその後台南市長を二期務め、任期途中で2017年9月に行政院長に抜擢され、現段階では少し早いですが、民進党内ではポスト蔡英文の最有力人物とされている。

新高雄市も旧高雄市と旧高雄県が合併して(新)高雄市となることから、同市でも台南市と同様に、多数の有力者が出馬を模索したが、最後には陳菊高雄市長と楊秋興高雄県長の現職の市長と県長の二人に絞られ予備選に出馬した。この両名は、党内有力派閥の新潮流派出身ということで、かつては「姉弟関係」とも称されていたこともあり、「弟分」の楊県長が最終的には辞退するのではないかとの見方もあったが、結局お互いに譲らず激突することになった。予備選の結果は陳市長が圧勝し、公認候補に選ばれたが、その後楊県長は民進党を離党し、無所属候補として高雄市長選挙に出馬することになった。

選挙結果とその後の政局：

選挙直前の情勢は、台北・新北は拮抗ながらも

国民党がややリード（民進党は逆転可能との指摘もあった。）、台中市は国民党がリード、台南・高雄は民進党が圧倒的有利の中で迎えることとなった。

しかし、投票前夜に台湾を震撼させる事件が起きた。台北県永和市の国民党市議候補の選挙活動において、応援に駆けつけていた連戦元副総統の子息である連勝文・国民党中央委員が、銃撃され重傷を負ったほか、混乱の中で流れ弾にあたった男子1人が死亡した。被疑者はその場で逮捕され、銃撃の動機については、連氏が選挙の応援に駆けつけていた陳鴻源候補との間に不動産取引に絡む争いごとがあったとし、連氏を銃撃したのは誤射であり、政治的な動機はなかった旨の証言が報じられた。

動揺の余韻が残る中、実施された翌日の開票結果は、国民党が台北、新北、台中の3ポストを確保、民進党は台南、高雄で大勝し、2ポストを死守し、「現状維持」の結果となった。なお、全体の投票率は、銃撃事件の影響もあってかやや高めめの71.71%を記録した。

民進党は、エース二人を投入した北部で敗北したが、台中では大接戦を繰り広げ、南部で圧勝した結果、政党別総得票率では国民党を上回り（民進党49.87%、国民党44.54%）「荣誉ある敗北」の結果となった。

市長選挙と同時に実施された市議会議員選挙では、台南市を除く四都市で国民党が第一党の座を



2010 台北市長選挙民進党の活動

表2 直轄市長選挙候補の得票数、得票率、投票率

直轄市	当選	候補者と政党	得票数	得票率	投票率
台北市	◎	郝龍斌 (国)	797,865	55.65%	70.65%
		蘇貞昌 (民)	628,129	43.81%	
新北市	◎	朱立倫 (国)	1,115,536	52.61%	71.25%
		蔡英文 (民)	1,004,900	47.39%	
台中市	◎	胡志強 (国)	730,284	51.12%	73.15%
		蘇嘉全 (民)	698,358	48.88%	
台南市		郭添財 (国)	406,196	39.59%	71.01%
	◎	賴清徳 (民)	619,897	60.41%	
高雄市		黄昭順 (国)	319,171	20.52%	72.52%
	◎	陳 菊 (民)	821,089	52.80%	
		楊秋興 (無)	414,950	26.68%	

資料元：中央選挙委員会ホームページ「99年直轄市長、議員、里長選挙」(2010年11月27日)
http://www.cec.gov.tw/zh_TW/IDX/indexC.html

表3 直轄市議員選挙政党別獲得議席数一覧

地域	国民党	民進党	親民党	新党	台湾団結連盟	無所属他
台 北	31	23	2	3	1	2
新 北	30	28	0	0	0	8
台 中	27	24	1	0	1	10
台 南	13	27	0	0	0	17
高 雄	29	28	1	0	0	8
合 計	130	130	4	3	2	45

資料元：中央選挙委員会ホームページ「99年直轄市議員選挙 政党席次統計表」(2010年11月27日)
<http://210.69.23.140/pdf/E2010006.pdf>

死守したが、五都市の市議総数では国民両党ともに130人と同数に並んだ。他政党の議席獲得数は、親民党4、新党3、台湾団結連盟2、無所属45となった。

台湾の選挙における銃撃事件は2004年の総統選挙投票前日に当時の陳水扁総統、呂秀蓮副総統が銃撃された事件は記憶に新しい。当時は、総統候補自身が狙撃されたこともあり、民進党支持者の危機感を引き起こし、民進党の選挙に有利になったという見方がなされた。一方で、今回の選挙は被害者の連氏は候補者ではなかったが、元副総統の子息であり、何よりも藍軍陣営では将来の政治スター候補であったことから、藍軍陣営の危機感を高め、藍軍陣営の得票率が上がったとされた。

実際に今回の投票率は2005-06年の首長選挙と比べて、影響の大きかったと言われた台北県66.35%、台北市64.52%、台中市62.27%、台中県65.78%に比べて5-7%高かった。民進党は銃撃事件に関する捜査結果に疑念を抱き台北、新北、台中市長選挙に関し、当該事件が不当に国民党に有利になったとして当選無効裁判を起こした。(最終的に民進党は敗訴)

2010年直轄市長選挙の結果は、国民党は現有ポストを死守したことで、前年の県市長選挙での退潮傾向に歯止めをかけ、馬総統の再選に向けた態勢が整った。また、最大の有権者を有する新北市で勝利した朱立倫氏は国民党内での声望が高まり、ポスト馬英九の最有力候補を伺うことになった。

民進党は、北部二都市の奪還は失敗したが、南部二都市での大勝により、総得票率で国民党を上回り、党主席として選挙事務も取り仕切った蔡主席の地位は堅固なものになった。その一方で、銃撃事件の影響があったにせよ台北市で予想以上の「大敗」を喫した蘇元院長は、「民進党に不利な台北市長選挙で善戦し、その勢いで総統選挙に挑む」という、目論見が外れることになった。

5. 2014年統一地方選挙

選挙前の情勢：

2012年の総統選挙で馬総統は呉敦義氏を副総統候補に選び、民進党の蔡英文・蘇嘉全ペアを下し再選を果たした。国民党は、立法委員選挙でも単独過半数を制し、再び完全執政を果たした。また馬総統は、2013年7月に任期4年の党主席に再選され、次期総統選挙の候補者選出においても党内で影響力を行使できる条件が整った。民進党は総統選挙の敗北で蔡主席は引責辞任し、5月には5人の候補により主席選挙が行われ、蘇元院長が圧勝し、主席に就任した。

第二期馬英九政権の施政では、两岸関係は制度化された対話、協議メカニズムを進展させ、2015年11月には两岸分断後初の首脳会談（習近平・馬英九会談）の開催にまでこぎつけ、一定の成果を残した。

日台関係においては、2012年9月、日本政府による尖閣諸島の「国有化」措置により、台湾でも抗議活動が起こったが、2013年4月に「日台漁業取り決め」を締結したことで懸案が解決された。

内政面では、総統再選後、4年の間に陳冲、江宜樺、毛治国、張善政と4人の行政院長を起用し、経済振興、社会福利の充実など諸政策に尽力したが、台湾住民に対して印象的な施政を実施したとの評価は残せず、混乱の方が目立った。2018年の現時点で当時を振り返ると、馬総統が第2次政権で行政院長に起用した人材は、行政官、学者出身であったことから、リーダーシップが欠如し、議会、党、世論との関係に齟齬を来していたことから、完全執政であったにもかかわらず、「改革」がことごとく潰されるか中途半端なものに終わった感がある。

2011年3月の東日本大震災が引き起こした福島原発事故は、台湾社会にも原発のあり方をめぐり社会的な亀裂をもたらした。陳水扁政権時代から存廃が議論されてきた四機目の原発（第四原発）の建設問題は、最終的に事実上の運用停止に追い込まれた。更には、施政の混乱を代表し、台湾住民にネガティブなイメージとして鮮明に記憶されているのは、2013年9月に勃発した党内権力闘争の「馬王之争」と2014年4月の「ひまわり学生運動」が代表的なものとして挙げられる。

前者は、2013年9月に馬総統が王金平立法院長



2014 台中市長選挙民進党の活動



2014 国民党嘉義市長候補と王金平立法院長

の司法案件に関する不正な介入を知ることになり、王院長の党籍剥奪、立法院長という公職からの追放を狙ったが、「失敗」に終わり、馬総統の威信低下、国民党内部及び支持者に大混乱をもたらした事案である。

台湾の政局、政治運営への直接的な影響では、後者の「ひまわり学生運動」がよりダメージが大きく、国民党が2014年の地方選挙での敗北、2016年の国政選挙敗北に連なる流れを形成する甚大な影響を及ぼした。同社会運動は、2013年6月に兩岸当局間で調印した「兩岸サービス貿易取り決め」の立法院における審議の過程で、同取り決めに反対する学生らが3月中旬から約3週間にわたり、立法院の議場を占拠し、その間主催者側の呼びかけに約50万人が集結し、現政権の施政に対し反対の声をあげた。同運動は、短期間で平和裏に収束したが、その後、同取り決めは議会で批准されず、兩岸経済関係の強化を推進してきた国民党政権にとって大きな打撃となった。

一方で、同事件は、民進党陣営にも微妙な影響を与えた。同年5月で任期の切れる党主席をめぐり2014年の旧正月明けから、有力者が動きだしていた。先に謝元院長が出馬表明したのに続き、蔡前主席も3月に「ひまわり学生運動」が勃発する直前に出馬宣言を行なった。同運動の収束後の4月中旬、「2つの太陽」の一方であった蘇主席は党内団結を優先し、次期主席選挙への不出馬を表明、同時に謝元院長も不出馬宣言を行ったことで、事実上、蔡氏の主席復帰が確定し、5月の選挙では泡沫候補の挑戦を退け9割以上の得票率を得て三度目の党主席に就任した。

こうして「混乱の国民党」、「団結の民進党」というイメージの下に、統一地方選挙に突入することになった。

各党候補選出：

2014年11月に実施された選挙は、地方の首長、議員全ての公職者が改選され、台湾選挙史上最大

規模、選挙参加者が最多となる選挙であった。「九合一選挙」と称された統一地方選挙では、直轄市長（台北、新北、桃園（2014年12月以降に直轄市に昇格）、台中、台南、高雄）6をはじめ、直轄市議員375、県市長16（県長13、省直轄市（基隆、新竹、嘉義）3）、県市議員533、郷（鎮、市）長198、郷（鎮、市）民代表2095、全国村（里）長7853の計11076人が選出された。なお、有権者は、戸籍によって投じる票数が異なり、直轄市の台北市民の場合は、台北市長、台北市議、里長の3票、非直轄市の16県市の戸籍者は、県市長、県市議、里長のほか、郷（鎮、市）長、郷鎮市民代表の5票を投じた。

以下、直轄市長選挙に関する動向を中心に説明する。

国民党：

馬英九氏が1998年に当選して以来、4期16年にわたり国民党が執政している台北市は、党員投票と世論調査による予備選で4年前に銃撃で重傷を負った連勝文氏が勝利した。新北市は、現職の朱市長が、2016年の次期総統選挙への出馬か否かで悩んだ末に、党勢低迷を挽回するためとの内部事情により出馬を決定した。選挙後に直轄市に昇格する桃園県は現職の呉志揚県長が選出された。両党が重点選挙区とみなした台中市は、現職の胡志強市長が旧台中市長を2期9年、新台中市長1期4年の長期政権を担ってきたことから、出馬に消極的な姿勢を示していたが、後継者に予定していた候補の支持率が全く上がらなかったことから、最終的には自身が出馬し、「4期目」を目指すことになった。台南市は頼市長という強敵を前に候補者選びが難航した末に黄秀霜台南大学学長が選ばれた。高雄市は前回選挙で民主党を離党し、無所属候補で出馬した楊秋興前県長（その後、国民党に入党）を選出した。

民進党：

再選に障害無しとみなされた頼清徳台南市長、陳菊高雄市長が順調に選出されたほか、新北市は

ベテランの游錫堃元行政院長、台中市は林佳龍立法委員が予備選で勝利した。桃園市は、前回に続き鄭文燦氏が選出された。台北市は、複雑なプロセスを経ることになった。世論調査でトップを走っていた緑系の柯文哲医師が無所属候補として出馬を表明していたこともあり、民進党は「国民党候補に勝たせない」ことを最優先し、先に党内で候補を選出する「第一次予備選」で姚文智立法委員を選出した後、姚氏と柯氏の間で「第二次予備選」を行い、柯氏が勝利した結果、民進党は党独自の公認候補を立てず在野連合統一候補として柯氏の支持を決定することになった。

選挙結果とその後の政局：

選挙直前の国民、民進両党の見通しにつき、国民党は現有 15 ポストの維持は困難と認めた上で、どの程度で止血できるかという観点から、直轄 4 市の死守、仮に台北か台中を落とせば敗北、もし 2 つとも負ければ大敗、更に中部の執政縣市を落とせば惨敗との見方を示した。民進党は現有 6 県市の情勢が安定しているほかに、台中、基隆で安定したリードをし、彰化、南投、嘉義市、澎湖も接戦であるとし、「8 ポストを確保し、12 ポス

トが望める」との見通しを示していた。

11 月 29 日に投開票が行なわれた「九合一選挙」は、国民党が直轄市の台北、台中、桃園で敗れたほか、他県市でも票が伸びず、現有 15 ポストから半減以下の 6 ポストの獲得にとどまる壊滅的な惨敗を喫した。民進党は、南部で大勝し、直轄市でも桃園、台中を奪取したほか、中部大票田の彰化県、国民党南部の橋頭堡の嘉義市のほか、新竹市、澎湖県でも勝利し、現有 6 ポストから倍増の 13 ポストを獲得する予想以上の大勝利となった。今選挙で最も注目された「首都」台北市は、緑系無所属の柯文哲氏が大勝した。直轄市長選挙に連動する形で、直轄市議員選挙も議員数で民進党 (167 名) が国民党 (151 名) を初めて上回り、新北、台南、高雄で第一党となった。

空前の惨敗を喫した国民党は、江宜樺院長が引責辞任したほか、馬総統も当初はその意志はなかったものの最終的に、党内外の圧力を受けて党主席辞任に追い込まれ、同党中央は、翌月に党主席選挙を行い、朱新都市長が信任投票で当選した。また、拳党一致体制を内外に示すため専任の副主席には、郝龍斌前台北市長、黄敏惠前嘉義市長が就任した。

以下、直轄市長選挙の概要を簡潔にまとめる。

表 4 直轄市長選挙の得票数、得票率、投票率一覧

市	当選	主な候補者と政党	得票数	得票率	投票率
台北市		連勝文 (国)	609,932	40.82%	70.46%
	◎	柯文哲 (無)	853,983	57.16%	
新北市	◎	朱立倫 (国)	959,302	50.06%	61.65%
		游錫堃 (民)	934,774	48.78%	
桃園市		呉志揚 (国)	463,133	47.97%	62.73%
	◎	鄭文燦 (民)	492,414	51.00%	
台中市		胡志強 (国)	637,531	42.94%	71.83%
	◎	林佳龍 (民)	847,284	57.06%	
台南市		黄秀霜 (国)	264,536	27.10%	65.88%
	◎	賴清徳 (民)	711,557	72.90%	
高雄市		楊秋興 (国)	450,647	30.89%	66.44%
	◎	陳 菊 (民)	993,300	68.09%	

資料元：中央選挙委員会ホームページ「103 年直轄市長選挙 候選人得票数」(2014 年 11 月 29 日)

<http://db.cec.gov.tw/histQuery.jsp?voteCode=20141101B1B1&qryType=ctks>

台北市：柯文哲氏が終始選挙戦をリードしていたが、得票率17%、約25万票の差は予想を遥かに超えた大差での勝利であった。

新北市：施政満足度も高く、楽勝と予想された朱立倫市長は得票率1.28%差という薄氷を踏む辛勝で再選された。国民党への逆風を直に受けることになった。

桃園市：事前の全ての調査では、呉県長が大量リードしており、勝利した鄭文燦氏でさえ「勝利宣言」の原稿を用意していなかったほど、本人ですら驚きの逆転勝利であった。

台中市：選挙前の調査から、民進黨有利の情勢であったが、新人の林佳龍委員が現職に対して得票率14%もの大差をつけて勝利したのは驚きであった。

台南市：頼市長が、獲得した72.9%という得票率は、地方選挙、総統選挙を含む台湾の選挙史上最高の得票率となった。

高雄市：陳菊市長の得票率は68%台と頼市長には及ばなかったが、今選挙での得票数99万3300票は、最多有権者を有する新北市長を上回る最多得票となった。

直轄市以外の県市長選挙で目立った県市の概要：

基隆市：国民党分裂で漁夫の利を得た、民進黨の林右昌氏が立法委員選挙を含め当地における3回目の挑戦で初勝利し、17年ぶりに民進黨が同市

の市政を奪回した。

新竹市：緑軍候補が分裂する中で、民進黨の林智堅市議が得票率0.5%、得票数1014票という僅差で勝利したのは、桃園市と同様にサプライズであった。

嘉義市：30年以上も女性市長が続く同市は、閣僚経験のある国民党の陳以真が党派を超えた支持を集め有利とみなされたが、民進黨陣営は「反馬英九感情」を巧みに利用して選挙戦を展開し、逆転勝利した。

今選挙の結果は、筆者は2014年当時に「国民党の敗北であり、民進黨の勝利ではない」と記したが、今思い起こすと、「台湾住民の馬政権の施政への不満と漠然とした政権交代への期待が複雑に入り混じった結果」であったという筆者なりの結論に達した。

敗北した国民党は、その後党主席を交代し、ポスト馬英九時代に向けた動きを加速させたはずであったが、2015年の総統候補選出のプロセスと結果は、台湾社会を驚かした。2015年11月に、馬総統は習近平主席と歴史的な「兩岸首脳会談」を実現させたが、今会談が台湾社会の党派を超えた幅広い層に共鳴を引き起こすことは無く、馬総統に対する威信の高まりや国民党支持の回復に、裨益することはなかった。それよりも事前に起きた党内クーデターによる公認候補の挿げ替え、副総統候補のスキャンダルは、広義の藍軍支持者をも

表5 直轄市議員選挙政党別獲得議席数一覧

都市	国民党	民進黨	親民党	新党	台湾団結連盟	無所属他
台北	28	27	2	2	1	3
新北	26	32	0	0	1	7
桃園	29	20	0	0	1	9
台中	28	27	2	0	0	6
台南	16	28	0	0	1	12
高雄	24	33	1	0	1	5
合計	151	167	5	2	5	42

資料元：中央選挙委員会ホームページ「103年直轄市市議員選挙（区域）候選人得票数」（2014年11月29日）<http://db.cec.gov.tw/histQuery.jsp?voteCode=20141101K1B2&qryType=ctks>

表6 非直轄市の首長当選者、得票率、投票数

県市	当選者(現(元)職)	政党	得票率	投票率
基隆市	林右昌(前党副秘書長)	民進党	53.15%	63.92%
宜蘭県	林聰賢(宜蘭県長)	民進党	63.95%	70.46%
新竹市	林智堅(新竹市議員)	民進党	38.36%	62.90%
新竹県	邱鏡淳(新竹県長)	国民党	46.94%	68.76%
苗栗県	徐耀昌(立法委員)	国民党	46.59%	72.80%
彰化県	魏明谷(立法委員)	民進党	53.71%	72.93%
南投県	林明溱(立法委員)	国民党	50.96%	73.11%
雲林県	李進勇(元基隆市長)	民進党	56.98%	74.09%
嘉義県	張花冠(嘉義県長)	民進党	63.09%	74.19%
嘉義市	涂醒哲(元立法委員)	民進党	51.41%	70.96%
屏東県	潘孟安(立法委員)	民進党	62.93%	73.53%
花蓮県	傅崐萁(花蓮県長)	無所属	72.38%	61.77%
台東県	黄健庭(台東県長)	国民党	54.40%	67.82%
澎湖県	陳光復(元立法委員)	民進党	55.34%	66.27%
金門県	陳福海(元立法委員)	無所属	52.76%	45.15%
連江県	劉增応(医師)	国民党	66.24%	67.05%

資料元：中央選挙委員会ホームページ「103年縣市長選舉 候選人得票數」(2014年11月29日) <http://db.cec.gov.tw/histQuery.jsp?voteCode=20141101C1C1&qryType=ctks>



2014 嘉義市長選挙、馬総統批判の広告

困惑、失望させ、2016年の国政選挙は一敗地に塗れることになったのである。民進党は蔡主席の声望権威が高まり、3度目の政権交代、初の女性総統の誕生へ邁進することになった。

6. むすび

2回にわたり陳水扁政権と馬英九政権時代の地

方選挙と政局の関係を回顧した。両政権における若干の共通点として、最初に指摘できるのは、総統任期1期目の選挙はどうにか辛勝、あるいは大敗は避けられたが、二度目の選挙では壊滅的な敗北を喫し、党勢を立て直すことができず、政権交代の流れを確定づけたということである。

次に指摘すべきは、選挙において明確な争点があって、その優劣を有権者が的確に下したというよりも、その時の台湾社会に流れる「漠然とした不満や期待」が選挙結果を左右した。

2018年11月の選挙まで残すところ4ヶ月、夏休みを挟み、9月の立法院の新会期開催以降、台湾では年々通減しているとはいえ、徐々に選挙の雰囲気醸成されるはずである。蔡英文政権が再選への路を堅固なものにできるのか、国民党が長期に渡る低迷から脱却し、党勢復活の狼煙を挙げられるのか注目したい。

日本台湾交流協会事業月間報告

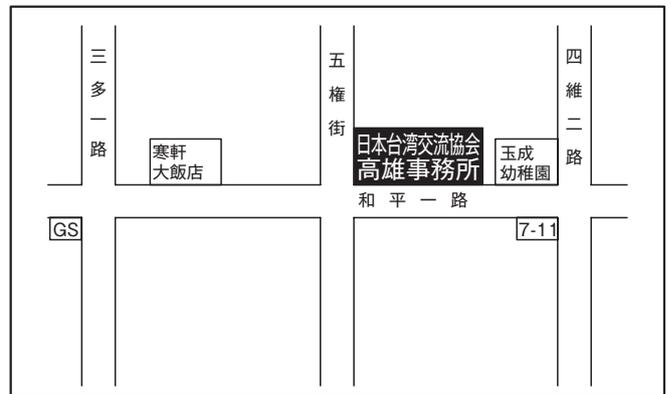
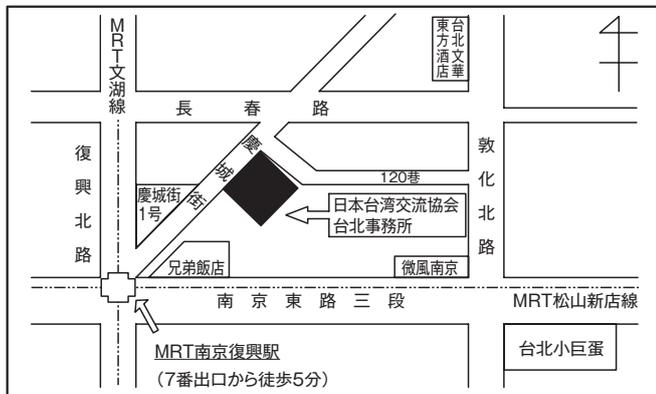
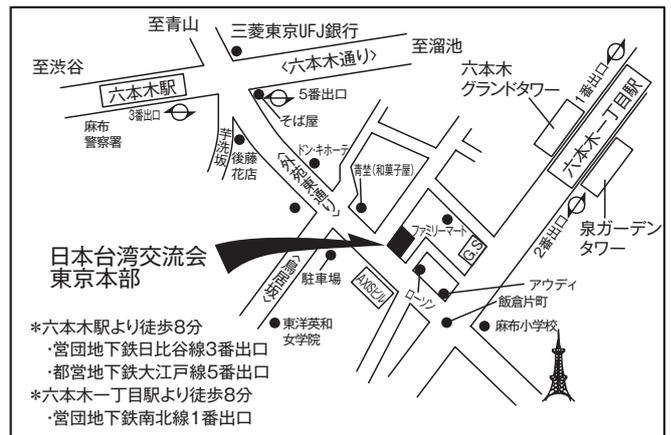
主な日本台湾交流協会事業（6月実施分）

6月	場所	内容	主な出席者（日）	主な出席者（台）
1日	台中市	第11回日台観光サミット in 台中	本保芳明・観光庁参与、山口範雄・日本観光振興協会会長、小堀守・日本観光局理事、石井隆一・富山県知事、中村時広・愛媛県知事、舟町専務理事（本部）、中杉主任（台北）、安藤主任（高雄）他	林佳龍・台中市市長、葉菊蘭・台湾観光協会会長、祁文中・交通部常務次長、張淑玲・台湾日本関係協会秘書長、謝世謙・中華航空総経理、李士亮・長榮航空福総経理他
1-5日	台北市、嘉義県	専門家派遣（亜里山森林鉄道の安全検査）	鉄道総合技術研究所専門家2名	
2日	台中市	2018年日台鉄道観光フォーラム	山口範雄・日本観光振興協会会長、小縣方樹・東日本旅客鉄道（株）取締役副会長、和田林道宣・近畿日本鉄道（株）社代表取締役社長、舟町専務理事（本部）、中杉主任（台北）、安藤主任（高雄）他	杜微・交通部台湾鐵路管理局副局長、張錫聰・台湾観光局副局長、葉菊蘭・台湾観光協会会長、孫鴻文・台湾高鉄公司営業処副総経理他
4日	台中市	台日 AI、IoT、ロボットのスマートものづくりへの応用とイノベーションシンポジウム	横田副代表、福村主任、大橋主任（台北）	何美玥・台湾日本関係協会科学技術交流委員会主任委員（総統府顧問）、張淑玲・台湾日本関係協会秘書長 他
6日	台北市	日台産業協力架け橋プロジェクト（札幌 IT 産業海外展開推進実行委員会案件商談会）	石田貿易経済部次長、正岡貿易経済部副長（本部）、相馬主任、大橋主任（台北）	蕭陳泳理事、林峻暉秘書長・台日産業技術合作促進會
7日	広島市	日台大学学長フォーラム	越智光夫・広島大学学長、永田恭介・筑波大学学長、72大学及び教育機関の学長、副学長、柿澤総務部長（本部）他	蘇慧貞・成功大学校長、40大学及び教育機関の校長、副校長、張仁久・駐日台北経済文化代表事務所副代表 他
7-12日	台北市、高雄市	三遊亭竜楽師匠落語公演（台北2ヶ所、高雄1ヶ所）	松原広報文化部長、浅田主任（台北）、中郡所長、堀込主任（高雄）	輔仁大学学生、葉淑華・高雄科技大学外語学院長、中島清明・同大学応用日語科副教授、林惠美・同大学応用日語科主任、高雄科技大学学生 他
9日	台北市	日本研究青年論壇（現代日本研究学会・中国文化大学共催、当協会後援助成）	松原広報文化部長、佐倉主任、白田主事（台北）	林文程・現代日本研究学会会長、徐慶興・中国文化大学教授 他
9日	台北市	台湾継承日本語ネットワーク第8回年次大会	鶴見主任、矢澤日本語専門家、石原日本語専門家（台北）	
13日	台中市	領事出張サービス	鶴見主任（台北）	
13日	東京	日台貿易経済会議フォローアップ会合	江藤貿易経済部長、石田同次長（本部）、横田副代表（台北）他	張淑玲・台湾日本関係協会秘書長、林慶鴻・同副秘書長 他
14日	東京	第一回日台第三国市場協力委員会	大橋会長、谷崎理事長、舟町専務理事（本部）、横田副代表（台北）他	邱義仁・台湾日本関係協会会長 他
14日	台南市	領事出張サービス（於：内政部移民署台南市第一服務站）	鈴木主任（高雄）他1名	
14-15日	台北市	APEC 食品ロス削減に関するハイレベル政策対話	郷達也・農林水産省参事官、馬場主任（台北）	黄金城・農業委員会副主任委員、各国政府関係者・学者 他
15日	台北市	日華化学台湾50周年記念パーティ	江守康昌・台湾日華化学董事長、横田副代表、南澤主任（台北）	呂正華・經濟部工業局長 他

15日	台南市	沙崙グリーンエネルギーサイエンスシティ国際セミナー出席（於：成功大学）	東京電力 Power Grid 株式会社（主催者）、日立製作所、野村総合研究所、富士電機等関係者、中郡所長、岩倉次長（高雄） 他	蘇慧貞・成功大学（主催者）校長、呉政忠・行政院政務委員、大学・企業関係者
17日	台北市	2018年度第一回日本留学試験		
17-23日	東京・大田原市・草津市	有力者招へい事業（蘇芳慶・科技部政務次長）	リバーフィールド、キヤノンメディカルシステムズ、オリンパス、テルモ、ニプロ、日機連 他	蘇芳慶・科技部政務次長、陳昭蓉・科技部生命科学研究發展司副司長、林世永・医療器材商品化中心協理
19日	東京	役員候補者推薦委員会及び評議員会		
20日	台北市	台北日本人学校夏祭り第3回実行委員会	鶴見主任（台北）	
21日	台北市	台湾日本人会2018年度第一回安全対策委員会	西海副代表、鶴見主任、北野主任（台北）	
22日	東京	台湾情勢セミナー	舟町専務理事、江藤貿易経済部長（本部） 他	蘇芳慶・科技部政務次長、陳昭蓉・科技部生命科学研究發展司副司長、林世永・医療器材商品化中心協理
22日	台北市	台北日本人学校運営委員と教職員との懇親会	西海副代表、鶴見主任（台北）	
22日	高雄市	台日幼児教育シンポジウム出席（於：高雄市立図書館）	五味留美子・茅野市児童部幼児教育課長、中村弘美・茅野市茅野保育園長、加藤積一・東京都藤幼稚園理事長、若山清和・埼玉県若山学園理事長、水野美恵・長野県上田女子短期大学附設幼稚園長、中郡所長（高雄）	范異緑・高雄市政府教育局長、鄭淑蓮・高雄市立前金幼兒園長、林莊・高雄市私立資和幼兒園長、李惠瑛・高雄市私立潜能幼兒園長、楊珮瑤・高雄市瀾濃非營利幼兒園長
23日	台北市	第五回台湾大学・名古屋大学大学院生研究交流（当協会後援助成）	白田主事（台北）	林立萍・台湾大学日本研究センター主任 他
27日	台北市	2018 Food Taipei 開幕式（日本台湾交流協会共催）	石毛博行・JETRO 理事長、横田副代表、相馬主任（台北） 他	黄志芳・TAITRA 理事長、劉徳立・外交部政務次長、李退之・農業委員会副主任委員 他
28日	台北市	日本語パートナーズ台湾2期帰国報告会	日本語パートナーズ2期10名、松原広報文化部長、浅田主任（台北） 他	黄冠超・教育部国際及兩岸教育司副参事、謝延淙・台日関係協会副参事 他
28日	高雄市	台日人形劇交流特別展覧会開幕式出席（於：高雄市皮影劇館）	中郡所長（高雄）	曾宏民・高雄市立歴史博物館行政長 他
30日	台東県	2018台湾国際熱気球フェスティバル開幕式出席（於：鹿野高台）	佐賀県他の熱気球関係者、中郡所長夫妻（高雄） 他	黄健庭・台東県長 他

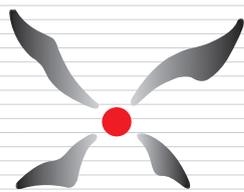
平成30年7月25日 発行
 編集・発行人 舟町仁志
 発行所 郵便番号 106-0032
 東京都港区六本木3丁目16番33号
 青葉六本木ビル7階
 公益財団法人 日本台湾交流協会 総務部
 電話 (03) 5573-2600
 F A X (03) 5573-2601
 U R L <http://www.koryu.or.jp>
 (三事務所共通)

表紙デザイン：株式会社 丸井工文社
 印刷所：株式会社 丸井工文社



台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓
 Tong Tai Plaza., 28 Ching Cheng st., Taipei
 電話 (886) 2-2713-8000
 F A X (886) 2-2713-8787

高雄事務所 高雄市苓雅区和乎一路87号
 南和和平大樓9樓・10樓
 9F, 87 Hoping 1st. Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan
 電話 (886) 7-771-4008 (代)
 F A X (886) 2-771-2734



公益財団法人

日本台湾交流協会

Japan-Taiwan Exchange Association

